

令和3年度

令和4年度

決算・予算

〔速報版〕

令和4年6月

箕面都市開発株式会社

令和3年度決算の概要

1 令和3年度予算と決算を比較すると

- 営業利益、経常利益、当期純利益とも、**予算を上回り、経営は順調**です。

2 調停条項と比較すると

- 期末資金残高について、**調停条項の想定推移を大きく上回り**ました。
- 純資産額については、平成24年度に債務超過を解消し、繰延税金資産^(※1)を除いても、**大幅に増加**しています。
- いずれの利益(営業利益・経常利益、当期純利益)においても、**調停条項を大幅に上回り**ました。

(※1):繰延税金資産とは…将来の会計期間に帰属すべき税金費用(損金)を当期に前払いしたと考え、これを繰り延べ処理することにより生じる資産のことをいいます。

3 今後の展望

- 箕面文化・交流センターの利用も回復することが見込まれ、引き続き調停条項を上回る順調な経営となっています。
- 引き続き、**キャッシュフロー安定化のための経営努力**を行います。

令和3年度

決算

1. 令和3年度決算

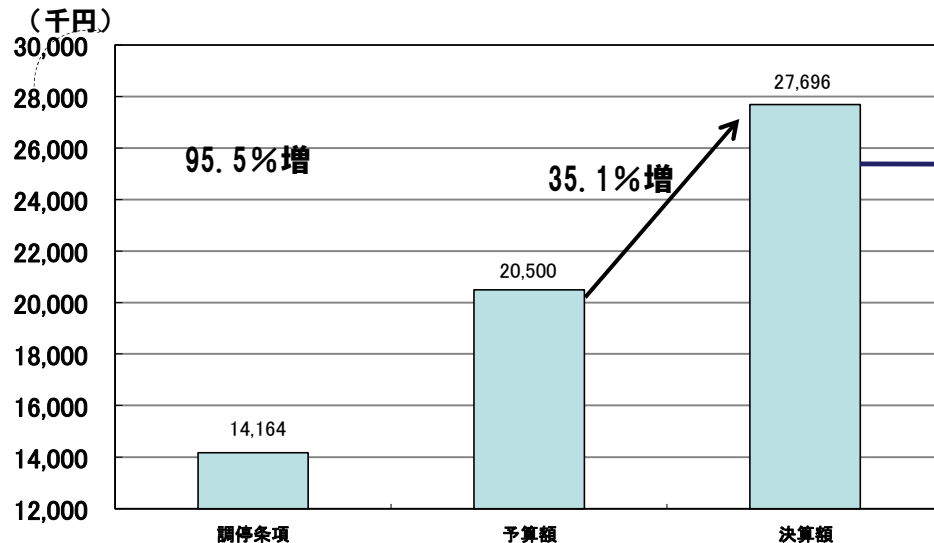
(単位:千円・%)

	令和3年度実績			令和3年度決算の比較			
	調停条項	予算額	決算額	予算との比較		調停条項との比較	
				増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	106,074	126,500	126,841	341	0.3	20,767	19.6
営業利益	14,164	20,500	27,696	7,196	35.1	13,532	95.5
経常利益	12,544	17,810	28,353	10,543	59.2	15,809	126.0
当期純利益(※)	6,150	17,390	27,715	10,325	59.4	21,565	350.7
期末資金残高	84,070	115,641	130,002	14,361	12.4	45,932	54.6
純資産額	52,931	136,495	146,820	10,325	7.6	93,889	177.4

(※)法人税等調整額を除いています。

法人税等調整額とは…税務上の益金、損金で算定される課税所得と企業会計上の収益、費用で算定される利益との差額を調整する会計処理のことをいいます。

2. 営業利益（本業利益）の比較



決算においては、すべての項目において、調停条項を大幅に上回りました。

調停条項、予算額ともに上回りました。

要因

昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響で箕面文化・交流センターの利用料金収入が減少したものの、箕面商工会議所主催の市内販売促進事業による販売手数料収入の増加があったことに加え、従業員の減員に対し補充を行わなかったことで、費用が抑えられたため。

3.貸借対照表

(単位:千円・%)

	令和2年度		令和3年度		増減額
	金額	構成比	金額	構成比	
資産合計	557,420	100.0	572,004	100.0	14,584
流動資産	125,393	22.5	140,911	24.6	15,518
固定資産	432,027	77.5	431,093	75.4	▲934
有形固定資産	416,805	96.4	415,473	96.3	▲1,332
無形固定資産	296	0.1	296	0.1	0
投資その他の資産	14,926	3.5	15,324	3.6	398
負債合計	432,244	77.5	418,716	73.2	▲13,528
流動負債	25,385	5.9	23,537	5.6	▲1,848
固定負債	406,859	94.1	395,179	94.4	▲11,680
純資産	125,176	22.5	153,288	26.8	28,112
純資産(繰延税金資産除く)	119,105	—	146,820	—	27,715

参考1：経営内容を判断するポイント

■ 貸借対照表や損益計算書で経営判断することも必要ですが、新たな投資や臨時的な支出に大きく左右されます。

★ 調停条項の着実な履行を判断するポイント

- ① 期末にどれだけの資金残高があるのか
- ② 純資産額が増加しているのか

.....➔ **資金計画で判断することが適切**

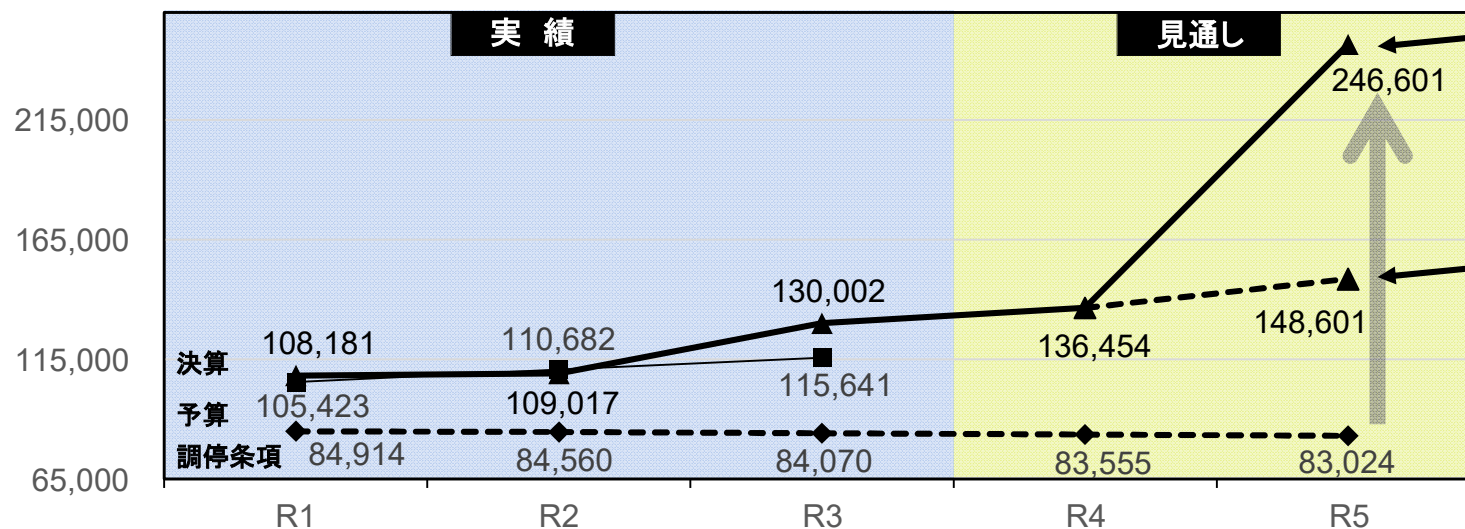
参考2：資金計画の見込み

(1) 期末資金残高の推移

(単位：千円)

	各年度の予算・決算実績				令和4年度	令和5年度
	令和元年度	令和2年度	令和3年度			
調停条項	84,914	84,560	84,070	調停条項	83,555	83,024
予算	105,423	110,682	115,641	今後の見通し <small>令和3年度決算による</small>	136,454	246,601
決算	108,181	109,017	130,002			

(千円)



令和5年度(予定)にのみのおサンプルザ1号館が建替えられた場合、所有床の売却により一時的に資金が増加します。

所有床の売却分を除いた経営面の推定推移でも調停条項を上回る予定です。

13期連続で調停条項の推定推移を上回る予定です。

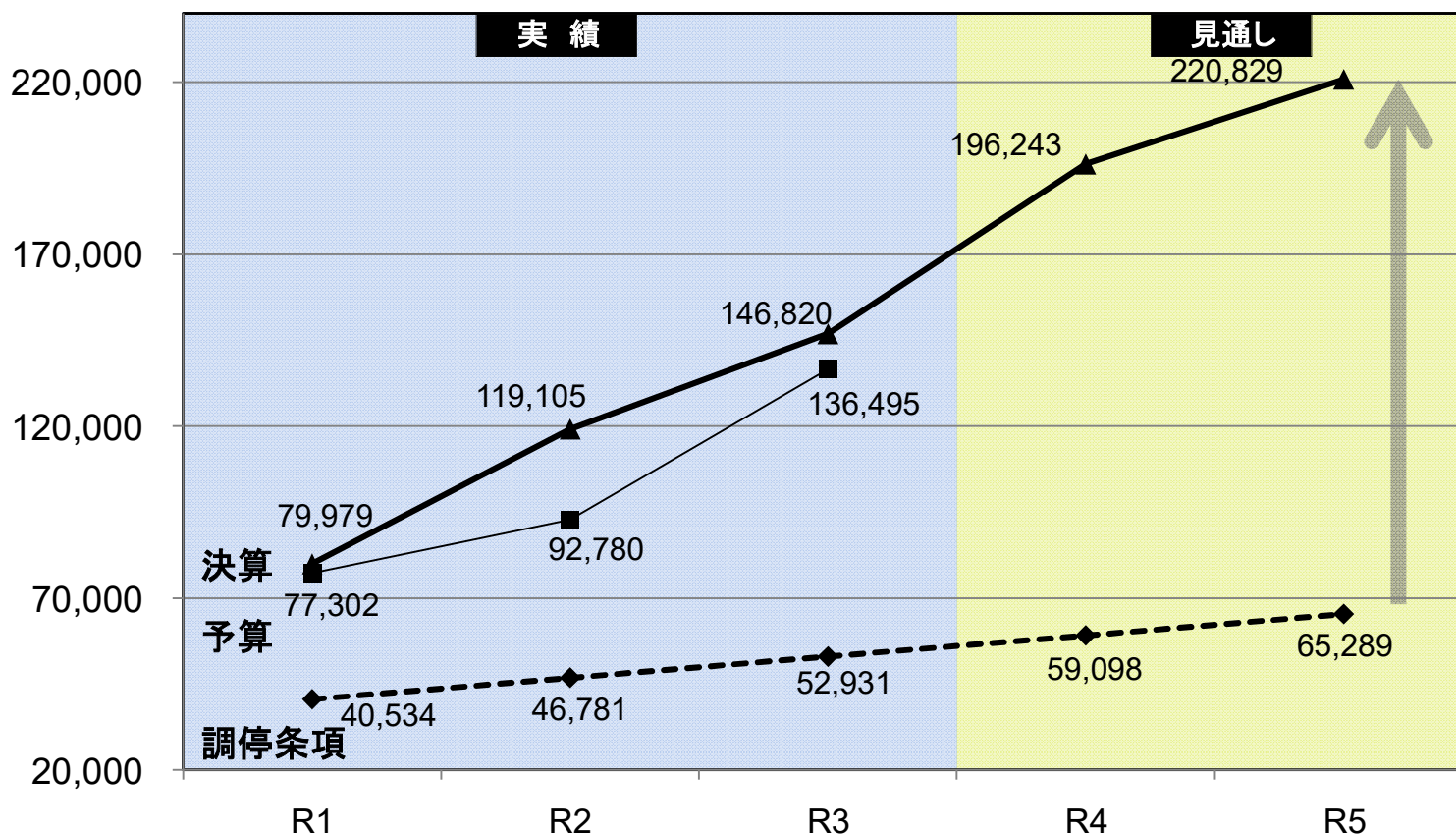
(2) 純資産額の推移

(単位:千円)

	各年度の予算・決算実績				令和4年度	令和5年度
	令和元年度	令和2年度	令和3年度			
調停条項	40,534	46,781	52,931	調停条項	59,098	65,289
予算	77,302	92,780	136,495	今後の見通し 令和3年度決算による	196,243	220,829
決算	79,979	119,105	146,820			

(各数値は繰延税金資産を除いています)

(千円)



調停条項の想定推移を大幅に上回る予定です。

令和4年度

予 算

1. 令和4年度予算と調停条項

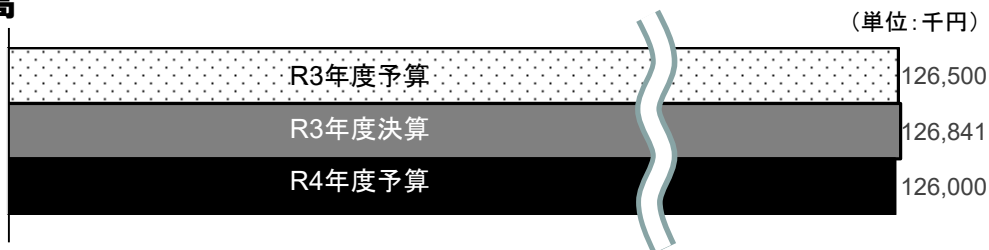
(単位:千円・%)

	調停条項 (令和5年3月期)		令和3年度 予算		令和4年度 予算		令和3年度予算の比較	
	金額	売上高 利益率	金額	売上高 利益率	金額	売上高 利益率	調停条項との 増減率	令和3年度 予算との増減率
売上高	106,074	—	126,500	—	126,000	—	18.8	▲0.4
受託料収入	64,990	—	81,309	—	79,504	—	22.3	▲2.2
所有床賃貸収入	9,000	—	7,378	—	7,469	—	▲17.0	1.2
土地賃貸収入	21,600	—	25,008	—	25,008	—	15.8	0
受取手数料収入	1,900	—	2,355	—	2,519	—	32.6	7.0
文化・交流C売上	8,584	—	10,450	—	11,500	—	34.0	10.0
営業利益	14,164	13.4	20,500	16.2	21,500	17.1	51.8	4.9
経常利益	12,585	11.9	17,810	14.1	18,985	15.1	50.9	6.6
当期純利益	—	—	—	—	—	—	—	—
当期純利益 (法人税等調整額除く)	6,167	5.8	17,390	13.7	49,423	39.2	701.4	184.2

2. 売上高・利益の推移

- ・令和3年度決算においては全ての利益とも令和3年度予算を上回りました。また、営業利益の増加は販売管理費の減少によるものです。
- ・令和4年度予算において、令和3年度決算と比較すると、シール会事業の終了や所有床賃貸契約の終了により減少する見込みです。
- ・令和4年度予算において、土地売却の特別利益計上による純利益金額の増加を見込んでいます。
- ・経営内容の判断指標である期末資金残高や純資産額は、順調に増加推移する予定です。（6・7頁参照）

■売上高



R3予算とR4予算の比較・主な要因

前年比0.4%減

- シール会事業終了による受託料収入の減収による

■営業利益



前年比4.9%増

- 販売管理費の減少による

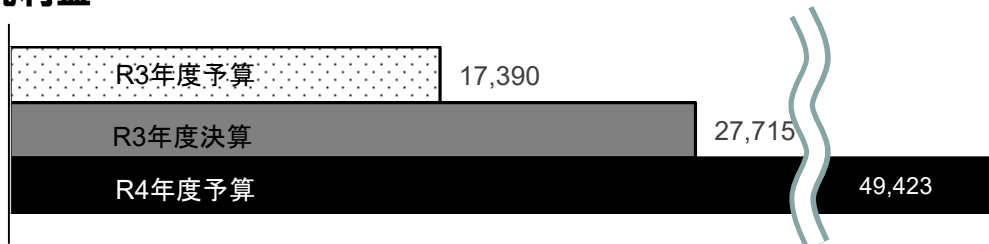
■経常利益



前年比6.6%増

- 営業利益の増益による

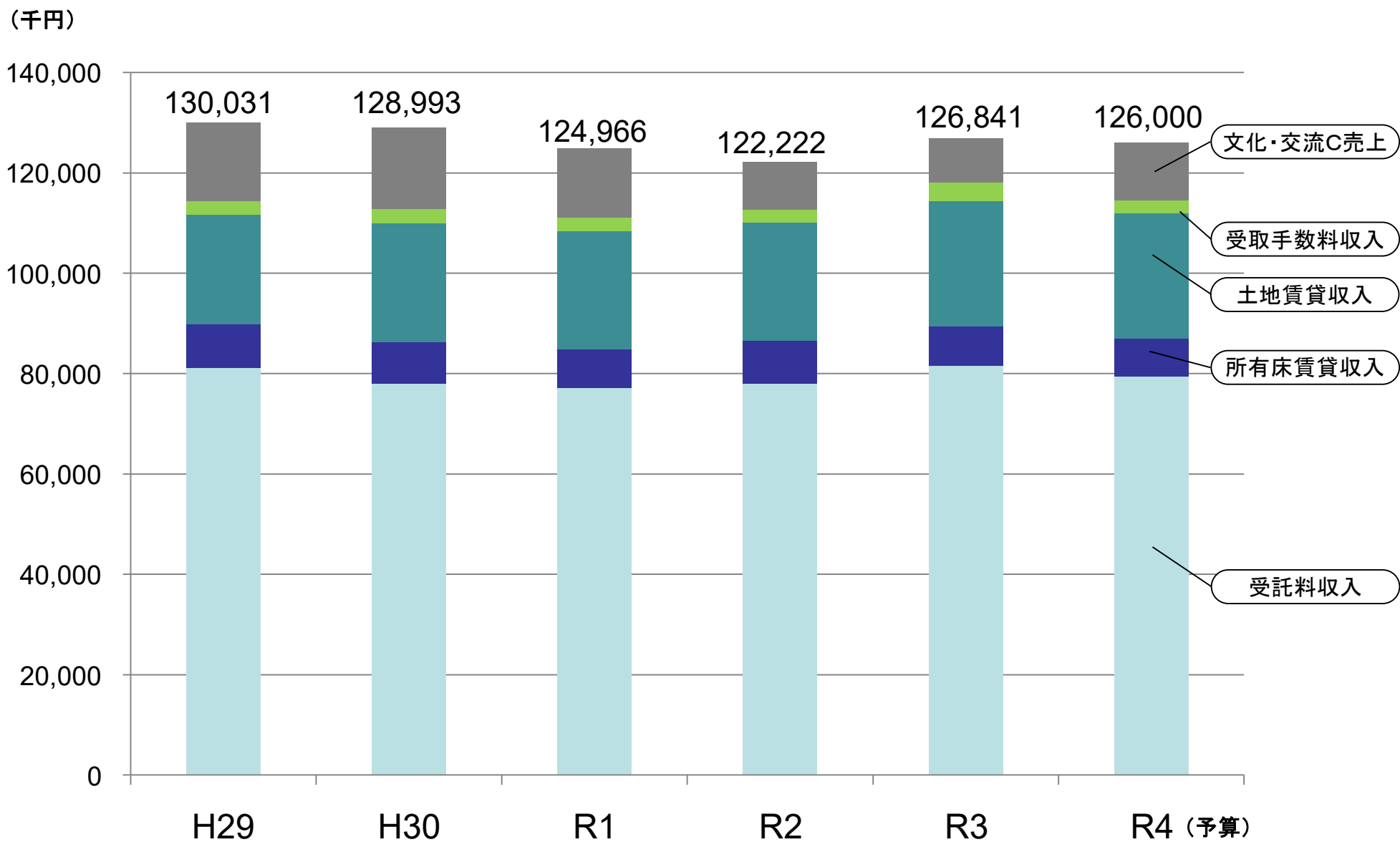
■当期純利益



前年比184.2%増

- 土地売却による特別利益の増加及び欠損金繰越控除制度の活用等に伴う法人税額の減少による

参考1：事業別売上高の推移



参考2：売上高増減の主な要因

